



跡見学園女子大学新学長、新副学長に聞く

学生たちが自律、自立し、自らのキャリアデザインを描けるよう、全面的に支援

跡見学園女子大学は2022(令和4)年度から、新学長と新副学長2名の新体制となりました。新しい出発に向けて「これからの跡見学園女子大学」について、語っていただきました。

「真の女子大学」に

小仲 信孝学長(以下、小仲) 私
は、跡見学園女子大学を「真の女子大学」にしたいと考えています。「跡見学園女子大学にどんな印象を抱いていますか?」と尋ねると、「お嬢様大学」と言われることがよくあります。「お嬢様」という言葉からは「社会で活躍する女性」というイメージは出てきませんね。しかし実際は、卒業生の多くが社会で活躍し、就職先の企業からも高い評価を得ています。女子大学は、男性の視線を意識することなく、伸び伸びと学び、活動することができるといふ利点があります。その環境の中で、建学の精神である「自律し自立した女性」となり、自らキャリアデザインすることができる学生へと成長できる、それこそが「真の女子

女性の視点を取り入れ

小仲 しかし、悲しいかな私は男性で、「女性の視点」を持つことができません。女性のための大学を目指すなら、女性の力、発想、アイデアが必要です。

そこで、副学長に塩月亮子先生を迎え、女性の立場から大学改革を考えていただくことにしました。実は、女性の副学長就任は跡見学園女子大学では初めてのことなのです。今まで、ずっと男性中心で大学を運営してきたのです

大学」だと考え、学長として施策の中心に掲げました。

学生たちの将来に向けての意識づけは十分か、キャリア形成の支援体制はできているかを検証し、改善していくことによって、学生たちが将来社会で活躍していける素地を育てたいと思っています。

ね。それでは本当に学生の立場に立ちきれないと、塩月先生に「力を貸してほしい」とお願いしました。

塩月亮子副学長(以下、塩月) お声を掛けていただいたときは迷いました。「もつと適任の先生がいるのでは」と。けれども、日頃から学生やゼミ生たちに「もつとチャレンジしよう」と言っている自分がチャレンジしなくていいのか、迷いながらも前に進む姿を見せることも大事なのではないかと思ひ、お引き受けしました。

小仲 塩月先生は、まさに一番身近なロールモデルですね。**塩月** 学生に寄り添い、「学生ファースト」でいきたいと思っています。一人ひとり丁寧に接

して、その人の能力を引き出す教育を行います。「女性の視点」を生かしていきたいですね。**小仲** すでにいくつか取り組まれていますね。

塩月 はい、例えば「学生食堂プロジェクト」といって、女性教員と学生たちが協力して、食堂の壁を絵で飾ろうと、手作りの額を作成しています。私はこのアイデアを受け止め、実現していく架け橋となっています。

小仲 信孝(こなか のぶたか)

文学部人文学科教授。短期大学部を経て女子大学に着任。文学部長、大学評議員を歴任。2022(令和4)年度より跡見学園女子大学学長。

今の学生たちはシャイですが、デジタルネイティブでし、センスも素晴らしいと思っています。私たちが学ぶことも多いです。学生生活の中で、学生たちに自信をつけてもらい、「この大学に入っ

掲げた方針を具体化して

小仲 「学生たちのキャリアデザインを支援する」という目標を掲げましたが、掲げただけでは「絵に描いた餅」ですね。具体的な科目配置としてカリキュラムの中に落とし込んでいかなければなりません。それには専門的な知識や経験が必要です。そこで、教務・学務事項に精通し、学部長も経験されてきた石田信一先生にもう一人の副学長になっていただきました。

石田 信一 副学長(以下、石田)

カリキュラムは常に時代の要請に合う形で見直し、改革をしていく必要がありま

専門性を 大学運営に生かして

学のカリキュラムづくりに直接関わる機会がありました。その経験を生かし、キャリア教育の充実を含め、学長の方針をしっかりサポートしたいと思っています。

小仲 私の専門は日本近代文学ですが、文学の中に描かれてきた近代の女性たちは、今のうちに権利もなく、家や家族に束縛されてい

ました。それに比べ、現在の女性には大きな可能性が広がっています。授業の中でも学生たちにしっかりと現実を見る力、未来を切り開いていく力を持ってほしいと願ってきました。

学生たちには自分に対する客観的なまなざしを持ち、大きな視野でもつと広い世界を見てほしいと思います。

塩月 私の専門は文化人類学です。子どもの頃ケニアに住んだことがあり、また大学院時代にミクロネシア連邦で調査活動をしたこともあります。今、世界は不安定です。平和がいつ崩れるかわからない。大事なものは「相手を尊重する」こと。文化人類学では異文化理解を行い、お互いを尊重し合える社会を作ることを目指しています。

また、女性という立場だけではなく、車椅子の人、目の不自由な人など、さまざまな立場の人たちと多様性を認め合い支え合っている大学にしたいと思っています。

石田 信一(いしだ しんいち)

私はヨーロッパ近現代史を研究してきました。バルカン半島のクロアチアが専門です。現地に滞在していた1990年代に旧ユーゴスラヴィア紛争が起こったことから、民族紛争や平和構築の問題にも取り組んできました。自民族中心ではなく、互いに理解し合うことの重要性を感じます。

学生の皆さんにも、日本の枠の中だけでなく、広く世界に目を向けてほしいと思います。今、コロナ禍で海外との交流がしにくくなっていますが、近いうちに以前のように留学したり、留学生を受け入れたいですね。

コロナ収束を見通して

小仲 コロナ禍によってこれまでの通常の授業形態が取れなくなり、対面授業とともにオンライン授業を活用することになりました。ICT*に対する適応能力は若い先生方のほうが優れていますね。大学運営

も若い方たちに主導してもらわないと、時代に遅れていきます。そこで執行部には何人もの若い先生方に加わっていただきました。

やはり、学生たちがキャンパスで生き生きと活動するのが大学の本来の姿です。早く学生たちの姿が見える教育活動を再開したいですね。学生たちの潜在的な能力を引き出して、自信を持って社会へと羽ばたいていけるよう、支援していきたいと考えています。

塩月 亮子(しおつき りょうこ)

観光コミュニティ学部観光デザイン学科教授。全学学務委員長、セクシュアル・ハラスメント防止対策委員長、大学評議員を歴任。2022(令和4)年度より跡見学園女子大学副学長。

石田 信一(いしだ しんいち)

文学部人文学科教授。学務部長、全学共通科目運営センター長、文学部長を歴任。2022(令和4)年度より跡見学園女子大学副学長。

*役職には就任当時のものも含まれます。

*ICT: Information and Communication Technologyの略。パソコンやタブレット端末、インターネットなどの情報通信技術を使った教育、学習のこと。



「学生食堂プロジェクト」に取り組むゼミ活動の様子

